

『ハノイ日本研究紀要』論文募集

1.枚数

- ・論文は、40 枚以上 60 枚以内（400 字詰換算、注・図版・表等を含む）を基準とします。英文の要旨をつける。要旨の分量は、600 字を上限とする。要旨の執筆にはテンプレートの最後のページ（本文のあと）を使用すること。
- ・研究ノートは、30 枚以上 45 枚以内（400 字詰換算、注・図版・表等を含む）を基準とします。英文の要旨をつける。要旨の分量は、400 字を上限とする。要旨の執筆にはテンプレートの最後のページ（本文のあと）を使用すること。
- ・書評は、20 枚前後（400 字詰換算、注等含む）

2. 作成用ソフトウェア

原則として Microsoft WORD によって作成する。

3. 作成法

*一般

- ・文字方向：横書き
- ・日本語用も英数字用もすべて「MS 明朝」。
- ・文字サイズは、本文の場合「10pt」、注の場合「9pt」をそれぞれ指定。
- ・上下左右に 30mm の余白を作り、縦 35 行・横 40 文字と設定する。

*本文および注の具体的形式

① 標題

- ・主題と副題：中央寄せ。副題は改行し、前後に二倍ダッシュ「——」を付す。
- ・主題は 12pt、副題は 11pt、フォントは「MS 明朝」。
- ・執筆者名・所属：改行して、10.5pt で 1 行分空ける。フォントは 10.5pt の MS 明朝。姓と名のあいだはを全角 1 文字分空け、右寄せとする。

② 節の標題

- ・フォントは 10pt の MS ゴシック「ボールド」。
- ・前節末、および節本文との間を 1 行空ける。
- ・節番号は算用数字（1、2、3）。

③ 節の下位区分

- ・節の下に項を入れる場合の番号は 片括弧 1) 2) 3)。

④ 段落

- ・冒頭の文字を1字下げる。

⑤ 引用

- ・長い引用は、前後に空白行を入れてインデント（2字連続して字下げ）する。
- ・引用文の冒頭を1字下げるかどうかは自由。ただし、複数の段落を含む場合は1字下げが望ましい。
- ・本文中に埋め込む引用は鈎括弧「」を用いる。そのさい、引用文中にある「」はそのままとし、『』には変えない（元来の『』と区別するため）。
- ・引用文の一部を省略する場合、（前略）（中略）（後略）などとし、「……」は用いない。

⑥ 句読点

句点は「。」、読点は「、」（全角カンマ）を用いる。

⑦ 数字

- ・数字は原則として半角数字。

例：○ 1920 年 32 頁

× 1 9 2 0 年 3 2 頁

⑧ 年号

- ・年号（西暦）とする。「元年」は1年とする。

例：大宝1年（701）

大宝2年（702）

⑨ 参考文献の形式

- ・参照情報は、ベトナム人著者の場合はフルネームを示し、それ以外は姓を示す。「著者名 発表年：該当ページ」の順に記す。

例：（福田 2014:11）

（Phạm Lê Huy 2010：15-16）

- ・参考文献リストは、論文末の「主要な参考文献一覧」にまとめる。文献一覧は、日本語文と外国語文献に分け、それぞれ著者名（姓）の五十音・アルファベット順に配列する。同一著者の複数の文献を挙げる場合は発表年月日順に配列する。

参考文献の書き方：

和文単行書は、「著者名、発表年、『書名』、出版社」の順に記す。著者が複数いる場合は、「・」で区切って表す。

例：齋藤希史、2014、『漢字世界の地平』、新潮社。

中村春作・市来津由彦・田尻祐一郎・前田勉編、2008、『「訓読」論』、勉誠出版。

和文論文は、「著者名、出版年、「論文名」『誌名』巻(号)：ページ数」の順に記す。

例：福田武史、2003、「仁徳天皇と八田若郎女の贈答歌について」『国語と国文学』80(7)：16 - 26。

欧文単行書は、「著者名,出版年,書名,出版地:出版社」の順に記す。著者名は family name (姓), given name (名) の順にし、コンマで分ける。書名はイタリックにする。著者が4名以上の場合は2名以降を et al.と省略しても構わない。編者は ed. および eds で示す。書名は最初の文字を大文字にし、冠詞・前置詞・接続詞などの最初の文字は小文字とする。

例：Lurie, David, 2013, *Realms of Literacy : Early Japan and the History of Writing*, Cambridge: Harvard University Press.

Araki, Masazumi et al. 2007, *Ensligh Studies in Asia*, Kuala Lumpur: Silverfish Books.

欧文論文は、「著者名, 出版年, “論文名,” 雑誌名, (巻)号:ページ数」の順に記す。雑誌名はイタリックにする。

例：Hofflander, Alfred, 1966, “The Human Life Value: A Historical Perspective,” *Journal of Risk and Insurance*, 33(3):381-391.

英語以外の外国語文献を引用した場合は、外国語文献一覧において著者名のカタカナ表記、文献名の日本語訳を示す。

例：Nguyễn Quốc Hùng cb. 2007. *Lịch Sử Nhật Bản*, Hà Nội: Nhà Xuất Bản Thế Giới.

[グエン・クオック・フン編、2007、『日本の歴史』、ハノイ：The Gioi 出版]

Nguyễn Văn Kim. 1998. “Nhật Bản cuối thế kỷ XVI đầu thế kỷ XVII qua con mắt của giáo sĩ Allesandro Valignano,” *Tạp Chí Nghiên Cứu Lịch Sử* 2(3): 1-23.

[グエン・ヴァン・キム、1998、「アレッサンドロ・ヴァリニャーノが見た16世紀末から17世紀初頭にかけての日本」『歴史研究雑誌』2(3):1-23]

⑩本文中の注

- ・参考文献以外の注は脚注とする。
- ・注番号は句読点の前に入れる。

例：○ ……と言う⁽³⁾。

× ……と言う。⁽³⁾

* 執筆者紹介

名前、研究領域（専門）、肩書きの順で記載。

例：○ ○○ 日本研究 A 大学 博士課程後期2年生

4.掲載までの手続き

- ・応募論文を関係教員が査読し、十分な水準を満たしているものを掲載します。
- ・掲載が決定したら、各自の責任で基準に従って最終稿を作り提出します。
- ・校正は 2 回程度で、編集委員会と連絡を取りながら執筆者自身で行なっていただきます。
- ・詳しい執筆要項は、募集締切後に別途配布いたします。
- ・同一論文内部での表記不統一などを編集委員会で修正する場合があることをご了承下さい。
- ・掲載論文は、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)で公開されます。

5.今後の日程

- ・執筆希望者は 2025 年 7 月 31 日（木）正午（日本時間）までに、下記のメールアドレスに応募論文を送信してください。
- ・2025 年 9 月中旬：掲載論文決定。掲載者は査読者等の指示に沿って修正した原稿を作成・提出。
- ・2025 年 11 月末：掲載者は版下前最終原稿を作成・提出。
- ・2025 年 12 月下旬：雑誌発行。

6.著作権について

採用された上、『ハノイ日本研究紀要』に掲載された論文などの著作権は、『ハノイ日本研究紀要』編集委員会に帰属するものとします（したがって、他所で当該論文などを転載、翻訳などする場合は、当該編集委員会の許諾が必要になります）。なお、掲載された論文などは、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)上で公開することを前提とします。

編集委員会: ゼンショー東京大学・ベトナム国家大学ハノイ校日本研究拠点プログラム

連絡先メールアドレス：contact[atmark]jsph.c.u-tokyo.ac.jp（[atmark]を@に置き換えてください）